

昭和五十六年九月二十七日資料

第二二二回

史跡めぐり

幸手地区

越谷市郷土研究会

中村忠夫

第112回史跡めぐり案内

1. 日時 9月27日(日)

1. 集合 越谷駅前
午前8時集合

1. 往路 越谷駅
午前8時21分発(準急)
幸手駅 乗車
午前8時46分着下車

1. 行先

幸手城跡 → 田宮雷電社 → 聖福寺
(將軍御殿跡) → 宝持寺 → 浅間社
→ 公民館 → 昼食 天神嶋(出城跡)
→ 明治天皇行在所(脇本陣跡) →
一色稻荷 → 神宮寺薬師 → 琵琶溜井
→ 御成街道、鎌倉街道

1. 歸路 幸手駅
午後3時20分発準急
越谷駅
解散

1. 会費 1200円 但し昼食は各自持参

以上

花さかしくそらうかたぞちこく鳥の声

(草加菴)

荒川や氷と流す風の勢

上ツ下もまかり出るや月見草

(越谷菴)

四年の松のどけき風は祝詞哉

(幸平菴)

元禄十六年

水野織部長福

1. 中世の幸手

源平争乱のあと、源頼朝は鎌倉に幕府を開き、全国に守護地頭を置いて管内の統治を図った。当時幸手地域は下総津下河辺荘に属していたとみられる。

下河辺荘は頼朝の家人、下河辺荘行平の所領で、現在東京都の葛西地域を除き北葛飾郡の一带がこれに当る。「太平記」によると、正徳2年(1333年)北条貞時が得兵5万余騎を従えて下河辺に向ったことが記されている。

幸手地域はのちに単に、桜井郷田宮荘と呼ばれていたが、紫宮郷に属していたこともあったと知られている。田宮荘は近世の幸手領にあたる地域であるが、この地域は幸手の領主、一色氏の所領であった。一色氏は足利氏の庶子家であるが、元応元年(1319年)に一色公深が下総同田宮の本郷幸手に入部した。その後一色氏は九州探題に任ぜられ、大宰府にあったが、応永6年(1399年)再び幸手に戻ったと伝える。

当時一色氏の本城は、利根川(古利根川)の要害幸手牛村の城山に築かれ、幸手城とも称された。一色氏の城砦はこの城山のほか、澄堂長福の築城と伝える高野浅間台砦、幸手天神嶋砦、幸手浪寄田宮砦などがあった。

その後一色氏は鎌倉公方、足利持氏の被官となった。この關係は足利成氏が、古河に走り、古河公方になってからも一貫して続き、上杉方と戦を続けた。

天文23年(1554年)小田原北条氏の古河公方攻略戦にあたり、一色氏の居城幸手城をはじめ、天神嶋砦、高野浅間台砦などは北条方に攻められ、領主一色氏頼直をはじめ、多くの戦死者を出した。一色一族はこの合戦によって浪人となり、この地一帯に掃蕩した者も相当いたようである。

幸手宿右馬之助町の開発者、中村右馬之助氏、中島村の芦場氏など、近世村落の多くの名主層がこのような伝承をもっている。

2. 近世の幸手

天正18年(1590年)7月豊臣秀吉の小田原城攻略により、関東の覇者、小田原北条家が亡びると、替って徳川家康が移封され、関東に入封した。

幸手城の旧領主一色義直は家康により、新に旗本にとりたてられ、本領のうち、高5160石を与えられたが、間もなく知行所は下総国相馬郡内に移されている。しかし慶長3年(1598年)10月、一色次郎照忠は、平須賀村、宝聖寺に寺領3貫文を寄進しているので、一時は幸手領のうちにも知行所を持っていたのではないと思われる。いづれにしても当時幸手領はほとんどが幕府領であった。のちに幸手領の一部は関宿藩領や、旗本知行地に分給されたが、元禄年間には大部分が旗本知行地となっている。

徳川幕府が倒れ、明治政府となった明治元年(1867年)には、下総知県に所属し、明治2年に葛飾県となり、明治4年(1871年)埼玉県に所属し現在に至っている。

3. 幸手宿と日光街道

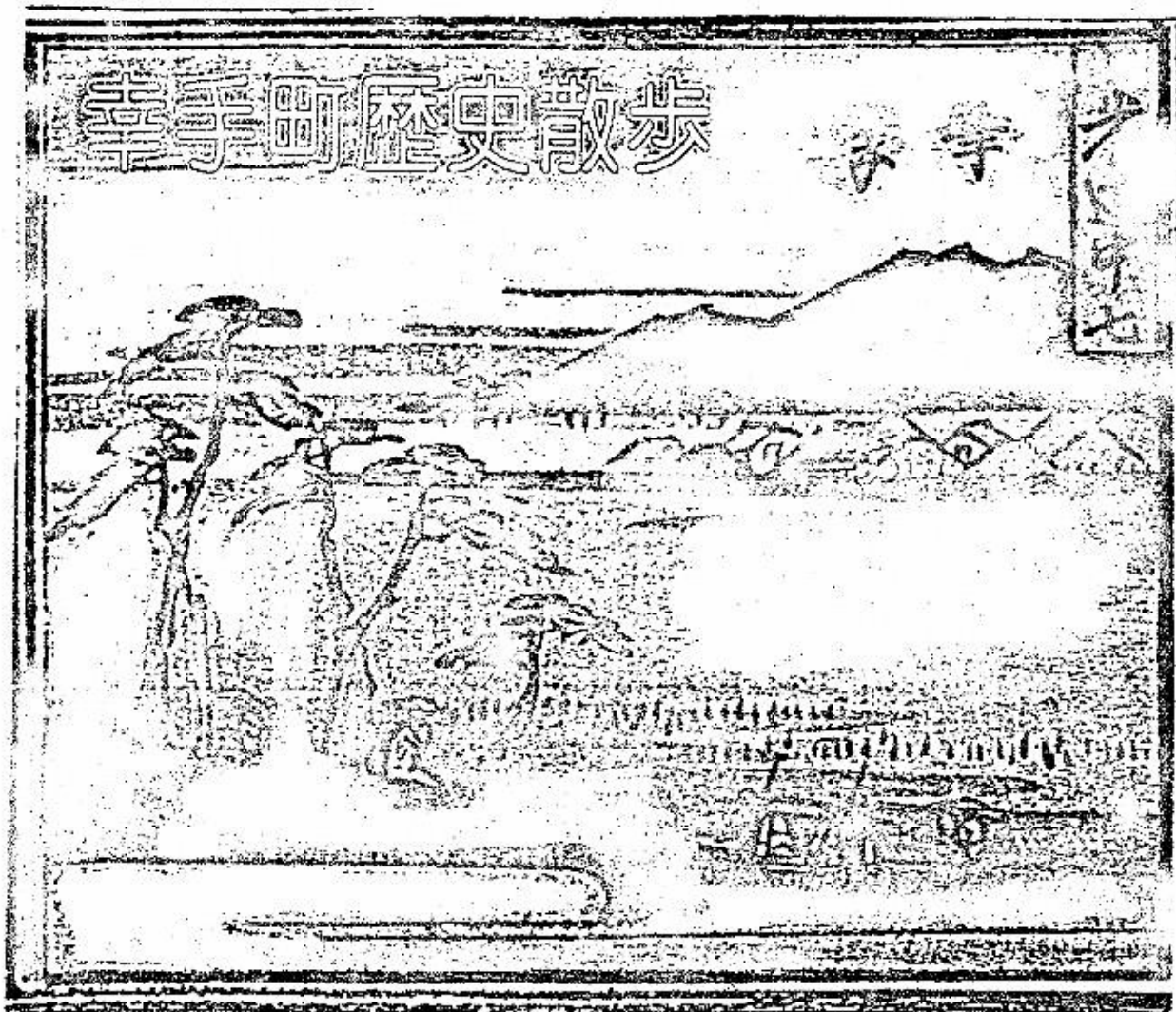
徳川幕府による伝馬制度の実施で、幸手は奥州街道(のちの日光街道)の第六次の宿駅に位置づけられ、おいおい宿場機構の充実がはかられていった。

宿の構成は、街道に面してそれぞれ久喜町、仲町、荒宿、牛村によって成りたっていたが、伝馬需要の増大に伴い、元禄12年(1699年)上高野村の右馬之助町が幸手宿のなかに組み入れられた。このうち久喜町は、久喜村(久喜市)の知久帯刀が開発した地で、出身地の久喜を称したが、知久の「久」帯刀の「き」をとって「久き」と称したともいわれる。

右馬之助町はその名のごとく、この地の開発者、新井(中村と改名)右馬之助の名をとったといわれる。

明暦3年(1657年)宿立人馬25人、25^疋馬を課せられたが、元禄9年(1696年)には、^一坪の地子免(宅地税)を許されている。

化政期(1804~1829年)には幸手宿の家数815軒、街道に沿って軒をつらね、2・7日の日、六賚市が開かれて、近郷商圏の中心地として繁昌した。ことに幸手は、川口、岩槻に通じる日光御成街道(もとの鎌倉街道)が、日光街道に合流する地点であり、将軍日光社参のときは、幸手の聖福寺が将軍の昼休所にあてられていた。



安藤 広重 (川口市
中山コレクション提供)
日光道中 幸手宿

1980年1月
編集 幸手町教育研究会
発行 幸手町教育委員会

幸手町の沿革

むかしの幸手は、北に渡良瀬川、西に利根川（現在の葛西用水）東に太日川をめぐらした地域で、川の流れの歴史が幸手町の歴史でもある。東に北総台地（目沼横野地）があり、上野（群馬）下野（栃木）から乱流する川の自然堤防が高野、高須賀、神明内、中野、平野、平須賀、吉野等の台地や平地をつくりそこに人々がだんだん集まって住むようになった。

古い時代は横野地や目沼等の貝塚によって判り、古代は平将門、中世は下河辺氏および古河公方家一色氏の根拠地となり、近世は江戸幕府および関宿藩の膝下だけに重要な所となり、日光街道、お成街道の宿駅として繁盛し、権現堂、西関宿の河岸により商業経済の中心として隆盛をきわめ今日に至った。

(1) 外国府間の道標

日光街道とつくば街道の分れるところにある。安永4年（約200年前）建てられたもので「左日光道」「右つくば道」「東かわつま前ばやし」と刻まれている。

(2) 行幸堤の碑と権現堂堤の桜

明治天皇が東北ご巡幸のとき築堤や民情をご視察になり、それを記念して建てたもの。行幸村のおこりもこのことから、岩倉具視頭領の碑は名文で刻まれている。（明治10年建立）

昔江戸を守ったこの堤に大正5年約3000本の桜が植えられ、洪水と観光に役立てた。太平洋戦後薪としてきられ、今は昭和24年に植えられたものである。また、ここには権現堂川用水記念碑もある。

(3) 順礼の碑

旧幸手町と旧権現堂川村と2ヶ所にたっている。昔の人たちの水との戦がしのばれる。

享和2年（1802）利根川を江戸川に導く工事のと

きに大洪水になり順礼親子の悲しい物語が残されている。碑は結城素明國伯作の順礼親子の姿が刻まれている（昭和11年建立）他は文部大臣鳩山一郎書順礼供養塔と彫ってある。

(4) 権現堂河岸あととその付近

江戸、明治、大正、昭和の初めまで舟運の要所で川沿いに多くの店が繁盛し、この地方の商業の中心地であった。お江戸日本橋まで往復し、穀類、雑貨、食料品、木材、砂石などが取引された。近くには船頭信仰した大杉様を祭った水神社があり、少し下ると、幸手農学校渡辺平和先生が教え子を救おうとして二人とも溺死した殉難記念碑が建っている。大正8年7月25歳であった。

(5) 熊野権現社

いつの頃祭られたかわからないが村の社として信仰があつた。権現堂川や権現堂川村の名もこの神社からおこり、境内には船頭たちが奉納した碑や土手ぶしんの絵馬など古い時代のものが多い。

(6) 橋守部翁遺蹟碑

幸手商高の一角に建てられている。江戸時代天保の頃の国大國学者の一人。碑文には人となりを書きその生涯と遺業が刻まれ、撰文は国学院大学河野省三先生。守部は文化6年（1809）から20年間ここ常止院に住み、その妻は幸手の田村清八の娘である。伊勢物語など多くの著書があり、又良家の子弟の教育にも当った。碑は昭和4年建立橋は幸中、栄中、西中、幸手商高の校章にも使われている。

(7) 正福寺（中曾根）の義賑窮民の碑

県の天然記念樹で有名な大榎の下に碑がある。天明3年（1783）浅間山の噴火のときこの地方が大きなきんとなった。この時21人の親人が金や米を出し70余日間も困る人々を助け、近くの村々もこれにならった。時の代官伊奈忠輝がこれを表彰したといふ記念の碑である。当時の様子がよく判るとして県の史跡に指定されている。大榎は枯れてしまって残念だが樹齡450年、根まわり5mもある。正福寺内には多くの仏像や道標も納められている。

(8) 聖福寺（新寺）

江戸時代將軍や勅使が日光社参のときはこの寺でお休みになったご殿所。將軍の間や勅使の間や門があり、左甚五郎といわれる彫刻や絵画がすばらしい。多くの仏像も安置され、運慶の作といわれるあみだ様や観音様が祭られている。古い寺であるが、本堂を建てかえてから通称新寺と呼んでいる。

(9) 宝持寺(浪寄)

幸手町としては最も古い寺で一色氏の寺である。有名な千体地蔵をはじめ、多くの仏像があり、葦商長崎屋や岩上家など古い墓が多く、泡の大徳寺の長崎屋の看板他寺宝が多く、欄間の彫刻はすばらしい。禅寺で今もお座禅に訪れる人も多い。

(10) 浅間様

赤子のひたいに初山のスタンプをおす奇習が今も残っている神社で、富士山の神と同じ木の花咲くや姫が祭られている。初めて富士山に登り、子どもの健康安全を願う親の信仰から生れたものでねぎとうちわで悪病を退散させるといわれ、7月1日生後一年未済の子に美しい着物を着せてお参りする習儀になっている。

(11) 川崎の香取神社

下総の國の守り神で古い時代この神社が國の西のはしにあたったので、幸手地方には香取神社(かんどり様)が各村々に多い。境内にはこのお宮の祭神経津主命の神や間大神・大貴己命の神などがたっている。この神社は農業の神で村人たちは秋のみの夜をお祈りした。

(12) 田宮の雷電様

むかしこの地方を田宮の庄と云った。又幸手町を田宮町と云った。その発祥がこの神社で、日本武尊の伝説にもでていて幸手地方の最も古い神社で今もこの付近一帯を田宮という。田の中に金色の雷が落ち、これを祭り田の中の宮田宮とした。水との関係が深く農民の信仰があつた。(明神は幸手稲尾神社であった)

(13) 幸宮神社

旧幸手町の氏神で八幡、八坂、大杉の三社が合祀されている。夏祭には各町内から山車がくりだしみこしがかつがれにぎやかである。殊にご本殿の彫刻はすばらしく稲のたわみきからとり入れまでの様子がよくわかる。同神社の神官東家は伝説ある家で、西行の木彫像を保存している。

(14) 幸手城跡

室町時代古河公方家臣一色氏の陣地とがある。幸手駅付近がそれであるが昔をしのぶものは何も無いが近くに一色輝陽隆河や一色氏信仰の五天神の一つ裏(浦)町の天神様がある。

(15) 明治天皇行在所

明治9年奥羽ご巡幸、全14年北海道ご巡幸、全29年関東大演習と3回お泊りになられた中村家がある。行在所とは天皇のかりにお住みになった所をいう。幸手地方の開拓者新井右馬助は当家の先祖で、たかさんの由緒ある資料が残されている。(慶長2年癸酉(西暦1599年)庭にある記念碑は東郷元帥の書である)

(16) たにし不動様

菅谷不動と成田不動と神明社が同じ境内にまつられている。菅谷不動は眼病の仏として信仰があつく成田不動尊は葦商上庄が祭ったもので、正月5月9月28日にはぎやか。神明社は中村家先祖が香取神宮と紫宮神社を分社してお祭りしたもの。境内には大杉様(あんば様)や大正12年震災により新築した詳殿の記念碑があり、大震災のこの地方の被害状況を知ることができる。

(17) 幸手宿町並

幸手駅付近から北をのぞむと日光街道幸手宿の町並がつづいている。日光街道陸羽街道とお成り街道の合流点でもあり、近くに権現堂河岸宿河岸をひかえ交通も便利で商業経済文化の中心地として発展した。今も残る商家の屋根の鬼瓦に当時の繁盛ぶりがしのばれる。

(18) 神宮寺の薬師様

創立年代不詳。源頼朝奥州征伐のおり、祈願した伝説が残され、腐尾山登願院といふ本尊薬師は病氣をなおしてくれるみ仏として信仰があつた。上高野村はもと神宮寺村といふこの寺の寺領であったともいわれている。

(19) 窪井

窪井の形がびわの形に似ているのでこの名がある。土地の人は鰐のうと呼んでいる。古い利根川の流れを関東郡代伊奈忠克が開発し江戸城を守るために太平洋に流し、そのあとを窪井をつくり掘作に力を入れた。今も東部一帯の用水として大切な役目をし、やまべつりでもにぎわい、治水の碑も三基たっている。近くに道しるべ、けやきの古木、まがり家、石仏、一里塚などがある。

(20) お成り街道・日光街道・鎌倉街道

びわだめ近く和戸を過って岩隈に通じる街道に美しい松並木がある道が將軍や勅使がお通りになったお成り街道である。お成りとは皇族勅使將軍のお通りをいう(天皇は行幸又はみゆきといい、皇后は行啓といった)少し進むと一里塚の碑もある。杉戸直から幸手宿への道は日光街道でこの道が栗城宿へ続いている。お成り街道の途中からせがき寺で有名な永福寺へ通じる道が鎌倉街道で、歴史上の人物源頼朝、西行法師、徳川家康も通った道である。

(21) 禪安寺

駅の西老松のそばえる所にある。この地の開拓者新井右馬助をはじめ古い墓が多い。(鈴木百淵写経の大はんにゃ経は有名で、これをたたむ時におこる風をうけると病にかからないといわれている。)

(22) 吉野神社と姥神様

幸手城主一色直為の奥方吉野の前を祭り姥神はその乳母安の戸を祭つてある。これにまつわる悲しい物語りを秘め吉野・安戸という土地の名もこの2人の名前からおこった。子育ての神として信仰があつた。

(23) 三光院と道しるべ

この付近は古くから開けたところで板碑が多くでている。厨子を開けると眼がつぶれるといわれる薬師や大目美しい仏が祭られている。又境内に道しるべが二基、杉戸、幸手、宝珠花のわかれ道を示している。

(24) 天神島の天神様

一色氏の守護神天神を祭つてある。運慶の作だといわれている。土地の名もここから生まれ、靈験あらたかだ境内には古木が多くべん天様の石像もある。

(25) 堂監寺

この地方では最も大きな寺で寺額13石、宋寺も多い。多くの仏像や寺堂を有し、古い墓石もあり古くから開けた地であることが判る。松虫の鈴や藤原秀郷の軍配等有名である。となりの香取神社には平将門を祭る赤木大明神が合祀されている。大きな庚申供養塔も道ばたにある。

(26) 中原庵の観音様

古い時代おぼしの中観音がこの地に来た時持たなくなつてここにお歸りになったという伝説がある。美しい立派な仏である。天井にも誰が彫ったか百体の観音様がおわし、まことに見事である。となりの香取神社には獅子塚の碑がある。又近くに八代村合併の碑もある。

(27) 横山光造の墓

慶応4年彰義隊に参加し上野戦争で敗れこの地に土着した。農業のかたわら剣道を教え明治34年に歿した。柳副院彰義居士と刻まれている。

(28) 禰鷯土地改良記念碑

昭和43年3月より昭和47年3月まで4ヶ年の歳月と総工費3億8200万円をかけ、430余ある沼をうめ2つの沼に集め広い美田ができた。これを記念して碑をたてた。

(29) 長閑の松の木のと

長閑の香取神社近くに大きな松の木があつた。この近くに来ると砂が降るので村人たちがこれを切りたおした。が、まだ砂降りはとまらない。そこでここに松の木あとという碑をたてた。それから砂は降らなくなった。今も田中家の墓地内にその碑が残されている。

(30) 平将門の首塚(浄誓寺)

本堂の裏にある小高い塚が平親王将門の首を埋めたと伝えられている。当時の民衆の味方であつた将門も朝敵として藤原秀郷や平貞盛に平定された。(天慶の乱)勇将も敵の闇者愛妻桔梗の刺のために討たれたという。これをうらみ桔梗の花は咲かないといわれ、付近には将門にまつわる伝説が多く残されている。

(31) 木立の八幡様

八幡様は応仁天皇を祭り戦の神として、また農耕の神として信仰があつた。この地方はむかし木立郷又は木館として五段村の幸館とともに陣原のおかれた所とされ、平将門伝説にでてくる光明院や、藤原秀郷の先祖を祭つたという鎌足山正覺院の碑もある。源氏や平家の守護神である八幡宮が旧幸手町や内国府間にもある。

(32) 権現堂川大堤重修記念碑

天明6年の洪水のとき木立のこの碑のある付近が切れた。今も切戸という。70数名の命を奪った。この堤は安政2年の大地震のときまたもやくずれた。これを復興させて立派な土手にした。これを記念し死者の霊を慰め水神の心をしずめるため明治27年碑を建立した。板垣退助の書になる碑が建っている。

(33) 宇和田公園

本多静六博士が大正6年に設計したもので、桜の木を初め苗木が多い。庄内古川を中川に流入させ、旧権現堂川を開けて羽生島中落しとともに上宇和田で庄内古川に流した。昭和3年にできあがった。この記念碑を初め四つの碑がたっている。

(34) 香取神社と道しるべ

吉田地区総鎮守として信仰があつい。境内も広く参道に並ぶ松が美しい。石の鳥居は江戸大相撲の年寄兼頭であった番橋太夫(7代)が嘉永3年郷里のこの社に奉納した。番橋太夫の墓は南蔵院にある。神社の入り口に道標があり幸手、杉戸、関宿の分かれる関宿道にたっている。

(35) 高須神社と観音院

庄内古川(太日川)の自然堤防の上にある古い神社とお寺である。高須神社は香取神社と天神様を合社したもので、この地の開拓者高須三郎高俊が祭ったという。観音院は古く平安朝であると県史にはあるが、実証するものはない。美しい観音様が美しいお獅子の中におわす。又ここに獅子頭が三頭あって昔はこれをお出して雨乞いをしたといわれている。

(36) 地藏院の地藏様

下吉羽の地藏院に立派な地藏様がお祭りされている(慈覚大師作という)。この仏は鎌倉時代この地方を領していた下河辺庄司行平の弟政義が高野山よりいただいてお祭りしたといわれている。二度の大火にもその難をのがれここにおわす。靈験あらたかな仏である。又境内に新坂東三十三観音が祭られ一ヶ所でお参りができることになっている。

(42)(43) 旗野地、蓮花院の松と香島の松
どちらの松も450年以上たっていて枝ぶりが見事である。

(44) 太日川の流路(四里八丁)

通称四里八丁といわれる道はこの川の自然堤防の上にでき関宿から春日部まで四里八丁あるのでこの名がある。関宿から粕壁岩槻を通り、江戸へはこの道が使われた。関宿藩の家老杉山対軒もこの道並塚で凶徒のため暗殺された。また武蔵と下総の境の道でもあった。

(37) 西関宿浅間神社

荒宿の浅間神社と同じご祭神でここでも初山の行事がおこなわれている。関宿向河岸の陸盛の頃の建物が多くご内陣はすばらしい。昔は山車も出たそうでのぼりや山車が倉庫の中にしまわれている。境内には浅間沼があったので兼島辨天が祭られ、又猿田彦大神という大きな自然石碑がある。惣新田村が生んだ柳瀬流祖岡田惣右エ門の碑もあり入口には背面金剛の石仏があり、正徳3年と記してあり大きないちようはぎんなん地藏のいちようとともに有名である。

(38) 臨川庵のぎんなん地藏

樹齢400年を過ぎたかと思う大いちようの胎内に子育て地藏が刻まれ信仰が深い。木が年々成長するのでけずりとらなければならぬ。またこの地は関東一の禅寺総持寺のあった所で、臨川庵はその總持寺で古い墓や寺宝が多く幸手で一番大きい板碑も保存されている。この付近を寺の内という。総持寺は市川園府台にうつされている。

(39) 関宿関所あと 河岸あと

現在は江戸川の河中に没したがその近くに新しい碑がたてられた。人鉄砲に出女をとりしめる舟関所として関宿藩がとりしまり、江戸城を守る第一の力ためとした。向河岸は穀類食料品その他の品物が取引され、豪商喜多藤は倉が48もあり船頭はこれを目じるしにしたという。陸運の交通とともに衰え、今は何もないが、近くにある浅間神社の建物や宗英寺にある墓地に豪華さを見ることが出来る。

(40) 西関宿蓮花院の不動様

この寺の秘仏である不動明王は応仁の乱の頃京都から乱をさけてこの地に移ったといわれ、こよりで作られたという古い仏像である。欄間の彫刻もすばらしく一枚のけやきの板に極楽浄土の天人が音楽を奏した図である。この墓地にも過ぎし日の姿勢さを見ることが出来る。

(41) 子の権現社

将門伝説にも出てくる神社で、悪病よけの神様として参詣する人が多くお参銭はこの地方で最も多いそうで、社内には鉄製のわらじやかましきなどが奉納され腰や脚の悪い人はとくにお参りするといふ。

(45) 中島用土地改良記念碑

昭和44年より50年まで6年もかかって用水悪水路を作った。6億1千万円の巨費を投じて吉田地区の土地改良がなされ、手作業から機械作業による美田と化し用水悪水路も完備できた。



① 外国府閩の遺標



② 行幸堤の碑と権現堂堤の桜



③ 願礼の碑



④ 昭和初期の権現堂川



⑦ 正福寺の義順親王の碑



⑧ 宝持寺 (浪寄)



⑨ 宝持寺 長島屋の墓



⑩ 浅間様



⑫ 田宮の當霊様



⑬ 幸宮神社 彫刻



No.	名称	No.	名称	No.	名称
* 1	外国府間の遺構	* 13	幸宮神社	* 25	宝聖寺
* 2	行幸堤の碑と権現堂堤の礎	14	幸手城跡	26	中原庵の観音様
* 3	権社の礎	15	明治天皇行在所	* 27	横山光遠の墓
* 4	権現堂河岸あととその付近	16	たにし不動様	28	神願土地改良記念碑
5	笠野権現社	17	幸手宿町並	29	長間の松の木跡
6	権守部跡遺跡	18	神宮寺の薬師様	* 30	平待門の首塚
* 7	正福寺の善願齋鉢の礎	* 19	琵琶溜井	31	木立の八幡様
8	聖福寺新寺	* 20	お成り街道・日光街道・鎌倉街道	32	権現堂川重修記念碑
* 9	宝持寺(浪寄)	21	祥安寺	33	幸和田公園
* 10	浅間様	22	笠野神社と権様	34	谷取神社と道標
11	川崎の香取神社	23	三光院と道標	35	高須神社と観音院
* 12	田宮の當霊様	24	天神島の天神様	36	地藏院の地藏様
37	西園宿浅間様				
* 38	藤川庵のざん地蔵				
* 39	関宿間所跡				
40	蓮花院の不動尊				
41	子の権現社				
42	蓮花院の松				
43	香島稲荷の松				
44	太日川流跡				
45	中島用水記				



19 琵琶瀬井



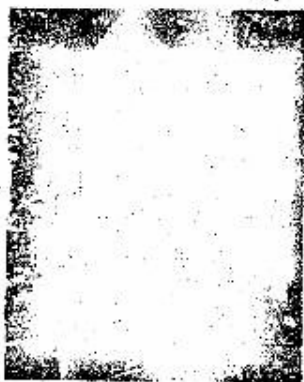
20 お成り街道・日光街道・鎌倉街道



25 宝聖寺



30 平将門の首塚

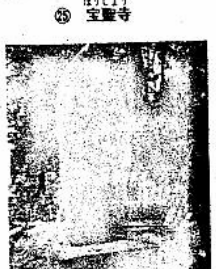
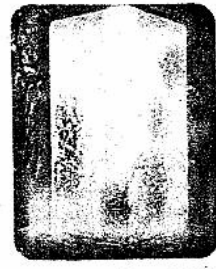
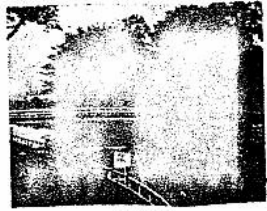
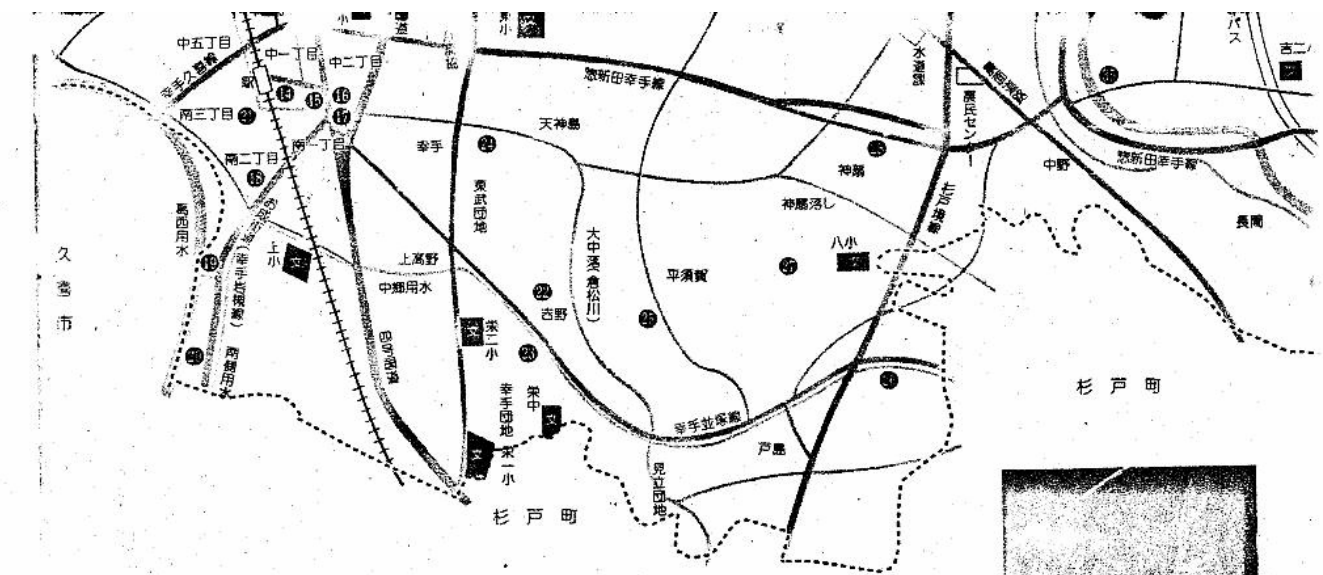
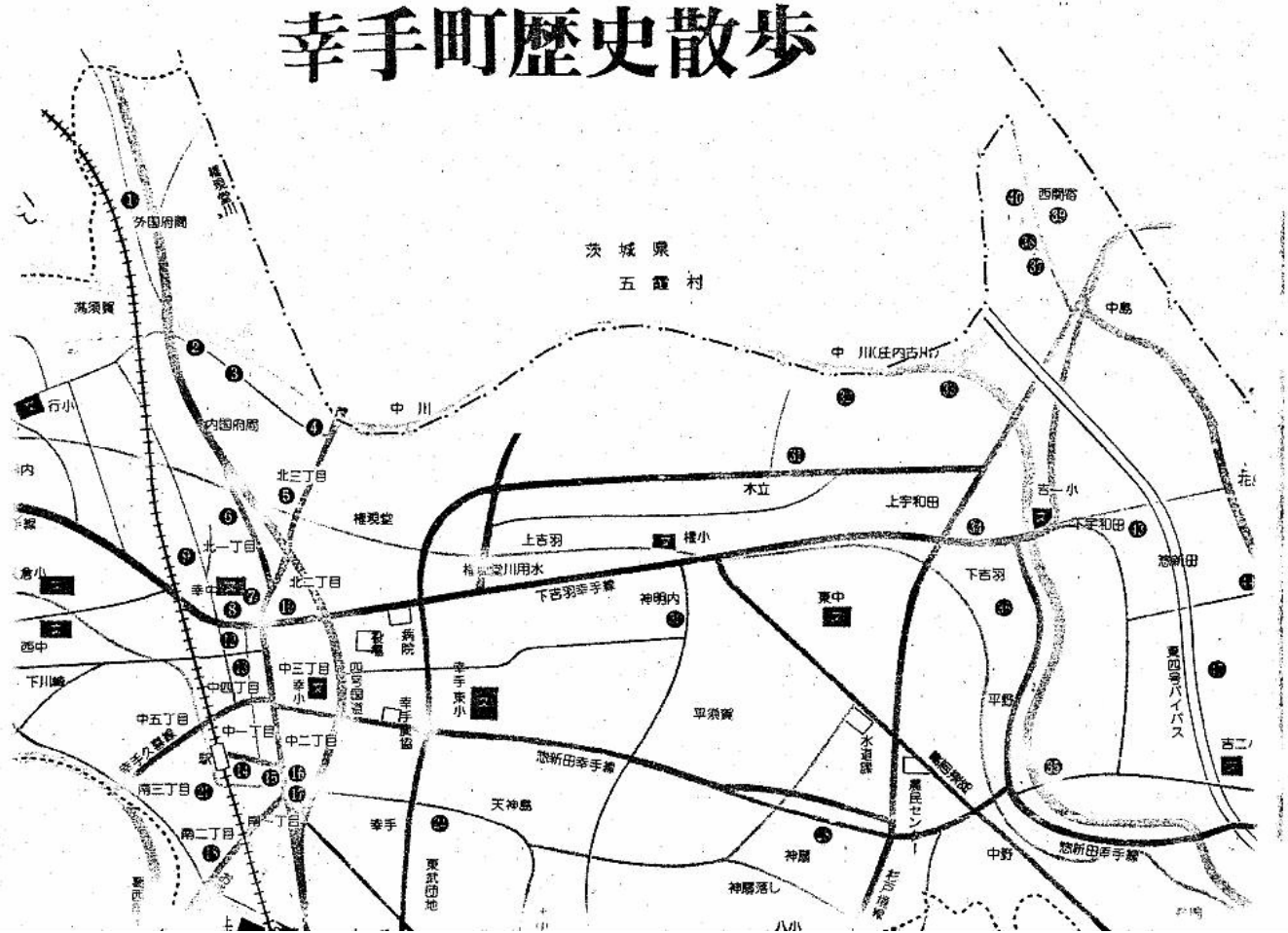


27 横山光追の墓



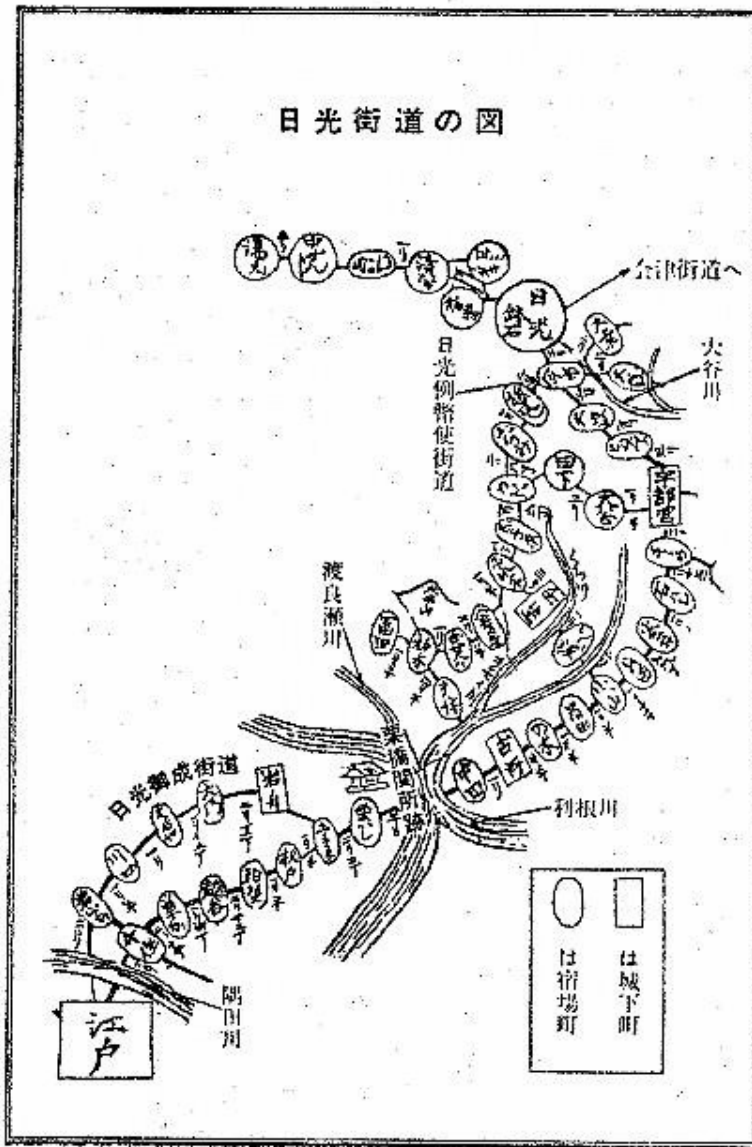
33 西川庵のぎんなん地蔵

幸手町歴史散歩



宝聖寺

日光街道の図



日光道中、宿駅戸数、旅籠屋数 (天保14年の調査)

宿名	総戸数	人口	旅籠数	宿名	総戸数	人口	旅籠数
千住	2,370	9,956	55	杉戸	365	1,663	46
草加	720	3,619	67	幸手	962	3,937	27
越谷	1,005	4,603	52	栗橋	404	1,741	25
粕壁	773	3,701	45	中田	69	403	6